



# 出羽三山



## 奥参り

千四百年以上前に  
蜂子皇子によって開かれた出羽三山は、  
羽黒山、月山、湯殿山から成り  
それぞれ祭神を祀っています。

月山、湯殿山は雪深い山頂や溪谷にあり、  
通年の参拝や祭祀が困難なため、  
羽黒山頂に三山の神々を合祀しました。  
茅葺屋根で豪壮な造りの三神合祭殿は、  
国の重要文化財に指定されています。

UNESCOワールド遺産★

## 出羽三山神社の祭り



**【花祭】**  
●7月15日  
造花の梵天には大きな霊験があるとされ、梵天を参拝客が奪い合う様子は圧巻。稲の開花期に際し、風雨の災厄のないことを祈る、出羽三山神社で最も重要な祭り。



**【八朔祭】**  
●8月31日～9月1日  
秋の峰入修行中、8月31日夜、山伏たちが護摩壇に火を放ち、夜空を焦がす勇壮な炎の祭り。稲の結実期に際し、成熟しようとする田面の災害がないように祈る祭り。



**【松例祭】**  
●12月31日～1月1日  
大晦日に行われる羽黒山の代表的な祭。松聖と呼ばれる2人の山伏を中心に位上方と先途方に分れ、験競べが行われる。一年の災いを焼き払い、新しい清浄な火を切り出し、福を招く火祭り。

## 出羽三山神社参拝のご案内

- (年度によって若干の訂正があります)
- 【羽黒山・出羽(いは)神社—三神合祭殿】**  
●個人祈祷(初穂料)1件5,000円より(祈祷札に願意、氏名を記入)
- 【月山神社本宮】**  
●開山期間/7月1日より9月15日頃まで  
●祓料/1名500円  
●祈祷/1件5,000円より(祈祷札に願意、氏名を記入)
- 【湯殿山神社本宮】**  
●開山期間/5月1日より11月上旬まで(積雪期は閉山)  
●祓料/1名500円  
●祈祷/1件5,000円より(祈祷札に願意、氏名を記入)

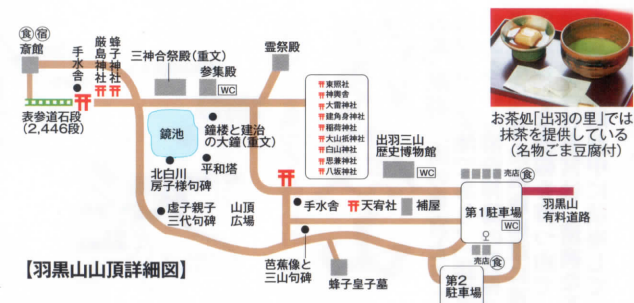


**【交通案内】**  
**羽黒山へ**  
【バスをご利用の場合】  
鶴岡駅から庄内交通バス羽黒山頂行きで50分。終点下車。表参道の石段を登る場合は、同バスで羽黒センター下車。  
【車をご利用の場合】  
山形自動車道鶴岡ICから、鶴岡-羽黒線経由で約13km。庄内あさひICから、約15km。庄内空港から45分。

**月山へ**  
【バスをご利用の場合】  
鶴岡駅から庄内交通バス月山8合目行きで1時間30分。終点下車(バス運行については庄内交通にお問い合わせ下さい)。徒歩2時間30分～3時間(頂上)

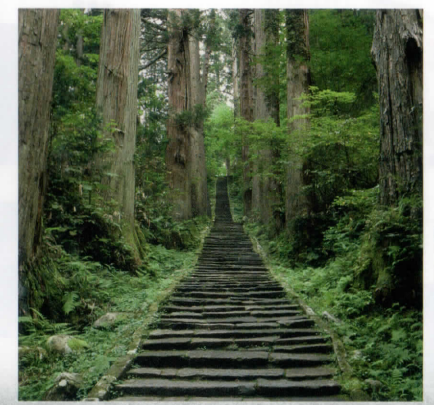
**湯殿山へ**  
【車をご利用の場合】  
●山形自動車道鶴岡ICから、鶴岡-羽黒線～月山高原ライン経由で約28km。庄内あさひICから、約30km。庄内空港から2時間。  
●山形自動車道湯殿山ICから、約12km。山形自動車道月山ICから、約13km。庄内空港から山形自動車道経由で1時間。  
【バスをご利用の場合】  
鶴岡駅から庄内交通バス湯殿山行きで1時間30分。終点下車。

**出羽三山神社社務所** Tel.0235-62-2355  
〒997-0292 山形県鶴岡市羽黒町手向字向7 FAX.0235-62-2352  
URL <http://www.dewasanzan.jp/>



**【羽黒山山頂詳細図】**

赤い鳥居をくぐると国指定重要文化財の三神合祭殿がある。萱葺木造建造物として日本では最大、大きさを誇り、月山、羽黒山、湯殿山の神々が祀られている。度重なる火災にあって、現在の社殿は文政元年の再建である。合祭殿前の御手洗池は、羽黒山の影向する池として鏡池と呼ばれ、平安から鎌倉時代にかけて人々より奉納された銅鏡が埋納されていた。池の東側に建つ切妻造り萱葺の鐘楼は、最上家信の寄進によって元和四年に再建されたものである。鐘は建治元年の銘があり、古さと大きさでは日本有数の古鐘で、鐘楼と共に国の重要文化財に指定されている。



国指定特別天然記念物 表参道杉並木



国指定重要文化財 鐘楼と建治の大鐘



高館で出される 精進料理(要予約)

**出羽三山 奥参り**

出羽三山は祖先の霊魂が鎮まるお山、生命の糧を司る山の神、海の神が鎮まるお山と人々から信仰され、厳しい修行で有名な羽黒山、霊場として知られている。東三十三ヶ国はもとより、皇室をはじめ、歴代の武將の霊山、古修験道によって、撥死再生をはたす霊山、湯殿山として知られている。東三十三ヶ国はもとより、皇室をはじめ、歴代の武將の篤き崇敬により、その地位は確固たるものになった。太古の昔より現世に確固たるものになり、子から孫へと敬神崇祖の精神を伝えていく。男子十五歳になると「お山参り」「お山駆け」をする風習が各地に残っている。特に西のお伊勢さまに詣ることを「伊勢参宮」と東の出羽三山に詣ることを「東の奥参り」と称して、重要な「人生儀礼」の一つとされ、民衆の生活の中に今でも息づいている。月山神社は天照大神の御弟神である月読命、出羽神社は出羽国の国魂である伊弉波神と稲倉魂命、湯殿山神社は大山祇命、大己貴命、少彦名命を祀っている。



お茶処「出羽の里」では抹茶を提供している(名物ごま豆腐付)

# 歴史の薫る精霊の山

今から約一、四〇〇年前の推古元年(五九三)、第三十二代崇峻天皇の第一皇子・蜂子皇子が羽黒山を開かれたのが、出羽三山の始まりである。羽黒山は三山の神々を合祀するお山であると同時に「羽黒派古修験道」の道場として今に伝える。

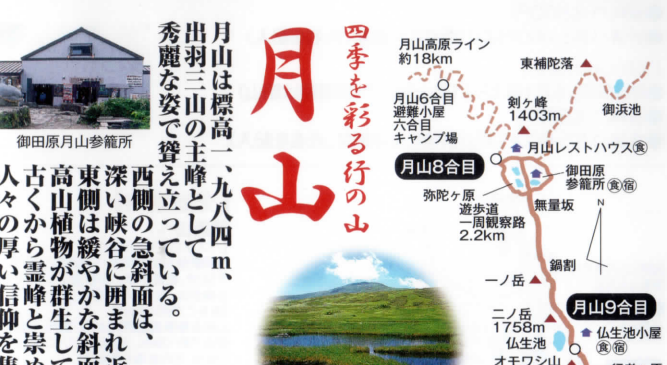


雪化粧した冬の随神門  
羽黒山表参道石段 約1.7km (随神門より山頂まで)  
上り→約50分  
下り→約40分



山頂に至る約2kmの参道は、樹齢三〇〇〜六〇〇年に及ぶ老杉が生い茂り、石段は全部で二、四六段に及び、ミシユラン・グリーンガイド・ジャポン三ツ星に認定された。一の坂の登り口に五重塔が聳え立つ。素木造り、柿葺、三間五層の均整のとれた優美な姿で、東北では最古の塔である。昭和四十一年国宝に指定された。創建は平将門と伝えられ、その後幾度か修復され、現在の塔は室町前期の建造物である。南谷は三の坂の登り口から右折し三百メートル程の処にある。かつて芭蕉が奥の細道行脚の折に門人曾良と逗留した跡があり、「有難や雪をかへらす南谷」の句碑が建っている。三の坂を登りきった処に斎館がある。山内に今も残る唯一の院坊であり、往時の姿を偲ぶことができる。

夏の訪れとともに月山の山開きが行われ、白装束の参拝者の姿が見受けられるようになる。八合目の御田原から頂上にかけては高山植物の宝庫であり、ニッコウキスゲ、ハクサンチドリ、ワイイチヨウ、ヒナサクラなど、その数は一三〇〇種以上上る。特に、いろは四十八沼と呼ばれる池塘付近には、見事な群落が見られる。湿原の中に御田原神社があり、月山中之宮として祈禱・神札等を取扱い、御田原参籠所として宿泊・食事等を供している。山頂に鎮座する月山神社本宮は延喜の制による名神大社で東北唯一の官幣大社であった。神階は従二位、古来朝廷をはじめ幅広く庶民の篤い崇敬を集めてきた。御祭神「月読命」は、月を象徴する神として、夜、海、魂や死後(命)の再生、蘇りの世界を司り、天下泰平、国土安穩、産業発展、五穀豊穡、大漁満足以霊験あらたかとされている。又、祖靈安鎮の山としても尊崇されている。



四季を彩る行の山  
月山は標高一、九八四m、出羽三山の主峰として、秀麗な姿で聳え立っている。西側の急斜面は、深い峡谷に閉まれ近寄り難く、東側は緩やかな斜面で、高山植物が群生している。古くから霊峰と崇められ、人々の厚い信仰を集めてきた。

# 湯殿山

古来、出羽三山の奥宮とされ、修験道の霊地であり、「語るなかれ」「聞くなかれ」と戒められた清浄神秘の世界である。湯殿山は、月山南西山腹に連なるなだらかな稜線を持つ山で、湯殿山神社本宮は、清冽なる梵字川の流れのほとり幽玄なる峡谷中に鎮座している。



秋が深まるにつれ、紅葉に染まりはじめた湯殿山は、しばしば乳白色の濃い霧に包まれます。神秘的な佇まいを見せられる。湯殿山神社本宮は、月山より南西に下ること約5km、清冽なる梵字川の流れるほとり、幽玄の仙境にあり、大山祇命、大己貴命、少彦名命の三神を祀っています。湯殿山神社本宮では、参拝に際し現在でも履物をぬぎ、裸足になり、お祓いを受けてからでなければお詣りは許されない、俗界とは切り離された神域である。昔湯殿山の行人の修行は一期千日であった。想像を絶する苦行を続け、自らの穢れを祓い、他人の苦しみを代わって受けようとしたのである。湯殿山系の即身仏は、荒行により体内の脂肪分をとり、入定後腐敗せず即身仏となるのが特徴である。そして、永く世の人々を救おうとしたのである。